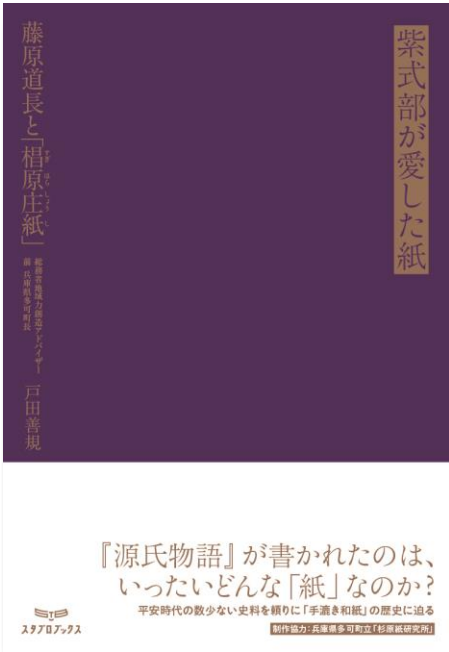


スタブロブックス 新刊書のご案内 【2024年7月27日 発売】

NHK大河ドラマ『光る君へ』関連本としてもご提案

『源氏物語』が書かれたのはどんな紙なのか？



平安時代に藤原摂関家が重用し、鎌倉時代には幕府が公用紙とした兵庫県多可町の「梶原庄紙(すぎはらしょうし)／杉原紙(すぎはらがみ)」。1300年の歴史を誇る「梶原庄紙／杉原紙」と紫式部との接点を探り、「手漉き和紙」の歴史と魅力に迫る。

地域おこし協力隊の

生みの親・椎川忍氏推薦！

郷土愛と地域愛に満ちた眼差しの中でこそ見えてくる「埋もれた地域資源」とそれに関する「歴史的想像力」の豊かさに敬服し、著者の地道な活動とあふれ出る力強さに感動しました。

藤原道長と「梶原庄紙(すぎはらしょうし)」
戸田善規 著

著者：戸田善規

前 兵庫県多可町長
総務省地域力創造アドバイザー。
1952年兵庫県生まれ。国会公設秘書、地方議員、首長として40年間、政治一筋に邁進。地元多可町では町長職を計5期務める(旧加美町時代含む)。首長職の卒業後は杉原紙振興ボランティア(語り部)を務めるなど、ふるさとを次代につなぐための活動に取り組む。

はじめに 「梶原庄紙」は和紙のプラチナ遺産

- 1・記録と記憶に欠ける平安期
- 2・「清少納言」と「紫式部」
- 3・藤原道長と『御堂関白記』
- 4・我が国の紙漉きの始まり
- 5・播磨国 多可郡「賀美郷の紙」
- 6・「賀美郷」での紙漉きの興隆期
- 7・摂関家が求めた「紙漉きの里」
- 8・紫式部が愛した「梶原庄紙」
- 9・それからの「梶原庄紙」

追補 『源氏物語』だけではないかも.....
なぜ私が『紫式部が愛した紙』を書いたのか
おわりに ふるさとの「心象風景」を大切にしたい

ご注文はJRCへ ▶▶▶ FAX:03-3294-2177

取次会社 J R C 経由ですべての取次からの搬入が可能です。返品は長期に承ります。

貴店番線印	ご注文数	紫式部が愛した紙 すぎはらしょうし 藤原道長と「梶原庄紙」 戸田善規 著	本体価格：本体1,800円+税 ISBN978-4-910371-06-1 C0021 発売日：2024年7月27日 仕様：四六判並製本・172頁
ご担当者	様	発行 スタブロブックス 〒673-1446 兵庫県加東市上田603-2 電話:0795-20-6719 FAX:0795-20-3613	